

# 重大な事故防止に向けた安全対策

## 【 31 アーチェリー 】

### 1 競技特性

アーチェリーは、18m～90m先の的を狙って矢をうち、その的中得点を競う競技である。試合中・練習中を問わず、シューティングライン上では一列に整列し、シューティングラインより先に人が入ることは許されない。また、競技進行は音声と信号灯によって管理されているため、競技中の事故はほとんどない。しかし、アーチェリーはもともと狩猟に使用される道具を改良したものであり、殺傷能力が高い。矢のスピードは装備や弓の強さにもよるが、約200～230km/hで、その衝撃力は厚さ5ミリの鉄板を打ち抜くほどと言われている。よって、万が一事故が起こった場合は、重大な事故につながる可能性が極めて高いため、安全に対する注意を怠ってはならない。練習中に、誤った弓具の扱いから起こった事故の報告があるため、未然に防ぐ指導や対策を行っていく必要がある。

### 2 想定される事故事例と予防策

#### (1) 主として施設・設備・用具が要因となって起こる事故

想定される事故やけがの原因(事例)	傷害例(重傷以上・軽傷)	予防策
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 弓具の点検不足</li> <li>・ ハンドルにリムが正確にセットされていない</li> <li>・ リムに弦がきちんとかかっていない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ リムが当たったところの裂傷や打撲など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 弓具の点検を普段から行うようにする</li> <li>・ 弓を組み立てるときに確認をしながら行う</li> </ul>

#### (2) 主として活動内容が要因となって起こる事故

想定される事故やけがの状況(事例)	傷害例(重傷以上・軽傷)	予防策
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の体に合わない強さの弓を使用する</li> <li>・ 矢を抜くときの後方や周辺の確認不足</li> <li>・ 矢をつがえずに弓を引き、弦をはなしてしまう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 筋肉や腱の損傷、手首の腱鞘炎など</li> <li>・ 刺し傷や眼球損傷など</li> <li>・ リムが当たったところの裂傷や打撲など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の体力に見合った強さの弓を使用する</li> <li>・ 正しい弓の引き方をする</li> <li>・ 矢を抜くときは、矢の後方に人がいないことを必ず確認してから抜く</li> <li>・ 空引きを行わない</li> </ul>

#### (3) 主として環境条件等が要因となって起こる事故

想定される事故やけがの状況(事例)	傷害例(重傷以上・軽傷)	予防策
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 長時間におよぶ炎天下での練習や試合</li> <li>・ 天候の急激な変化</li> <li>・ Jアラート発令時の対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 熱中症</li> <li>・ 落雷による感電</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 帽子の着用や水分をこまめに補給する</li> <li>・ 雷鳴はもちろんのこと、雲の動きや予報レーダーなどの情報を活用して、天候の変化に備える</li> <li>・ 発令時の対応や様々な場面での避難方法について確認し、事前に参加者等に周知しておく。また情報収集の手段や、関係者および保護者等との連絡方法について準備しておく。</li> </ul>

#### 参考文献

- 全国高体連アーチェリー専門部
  - ・ 部活動要領
  - ・ 高校生のアーチェリー部活動を安全に行うために
  - ・ 事故防止のための安全指導対策
- 公益社団法人 全日本アーチェリー連盟
  - ・ 全日本アーチェリー連盟競技規則

# 安全確認チェックリスト

## 【 31 アーチェリー 】

競技会名	
期 日	平成 年 月 日 ( )
会 場	
記載者名	

区分	確認項目	✓
施設 ・ 設備 ・ 用具	関係者以外の射場への立ち入り禁止の指示、表示をしているか	✓
	矢が的をはずした場合の安全対策はなされているか	
	ターゲット付近に人がいないことを確認して弓を引いているか	
	射場の安全点検、安全講習を定期的に行っているか	
	組み立て時に弓具点検を毎回行っているか	
	他人の弓に許可なく触れていないか	
	競技にふさわしい服装（身体にピッタリ合った上衣や髪型）をしているか	
	射つ前、射った後に持ち矢の本数を確認をしているか。	
活動 内容	射場周辺に不安全状態な箇所がないか	
	どのような場合でも人に向かって弓を引いていないか	
	水平に引き分け、矢先が上方を向いていないか	
	矢をつがえずに空射ちをしていないか	
	自分の身体に合った強さの弓を引いているか	
	矢取りは全員同時に行っているか	
	集中して行射を行う環境作りをしているか	
	矢を抜くときは後方を確認して抜いているか	
	ウォームアップ、クールダウンは十分に行っているか	
	行射距離にかかわらず、射線は統一されているか	
	矢を射つ前に、前方の安全確認をしているか	
	安全意識が維持できる緊張感ある練習を心がけているか	
体調不良の状態ではないか		
環境 条件 等	帽子の着用やこまめな水分補給を行っているか	
	医薬品などは準備できているか	
	緊急時の連絡体制は十分か	
	落雷に備え、天候や予報を活用し、避難場所の確保ができていないか	
発令 アラート 対応	主催者や指導者がJアラート発令時の対応を確認し、参加者等に周知しているか。	
	顧問不在時など想定される様々な場面での避難方法を、生徒等に指導しているか。	
	情報の収集や保護者への連絡方法を確認し、名簿等を準備しているか。	

反省・報告(事故、ヒヤリ・ハット含む)